



腕競

心三侯

貳編

川上鼠邊編輯

梅堂國政画

金松堂壽梓

35

30

25

20



川上鼠邊編輯

上之卷



川上鼠邊編輯



腕競 青柳

心之候

秋海 上の巻

川土 氣色

海編

梅堂國政記

金松 冬梓

腕競心三侯二編之序
水道其川上も清らうふ。昔堂の古くさる道行の
や仇討の空談の川下へサラくサリ流捨て新話実説
基とふ。勸善懲惡の意味を加へ喜怒哀樂の光景を
写し。意外に出るを以て流行とまゐる。歴史小説のみよ
非らむ。新編も又日々は新あり。前よ發賣せし此草紙も
福ひ開卷入の意は適ひし。是記者が意中の妙案あり。
もとよ引替へ巻中挿繪の拙さの画工が腕の鈍きゆへ
競るさもるぶじく。只心中堂三侯の

明治十三年第六月

梅堂國政記

梅堂國政記

腕競一上





叔も新助若川の友人の田を足るにしの
 小座しりてよ意根重なる上ヶ坂を
 るたぬよせん孫斗の意図人たたと
 思ひし小窓のちあるよ声あつて曲者
 ありとゆかりつ入来るものなりしう
 此方の二人の影なるへは

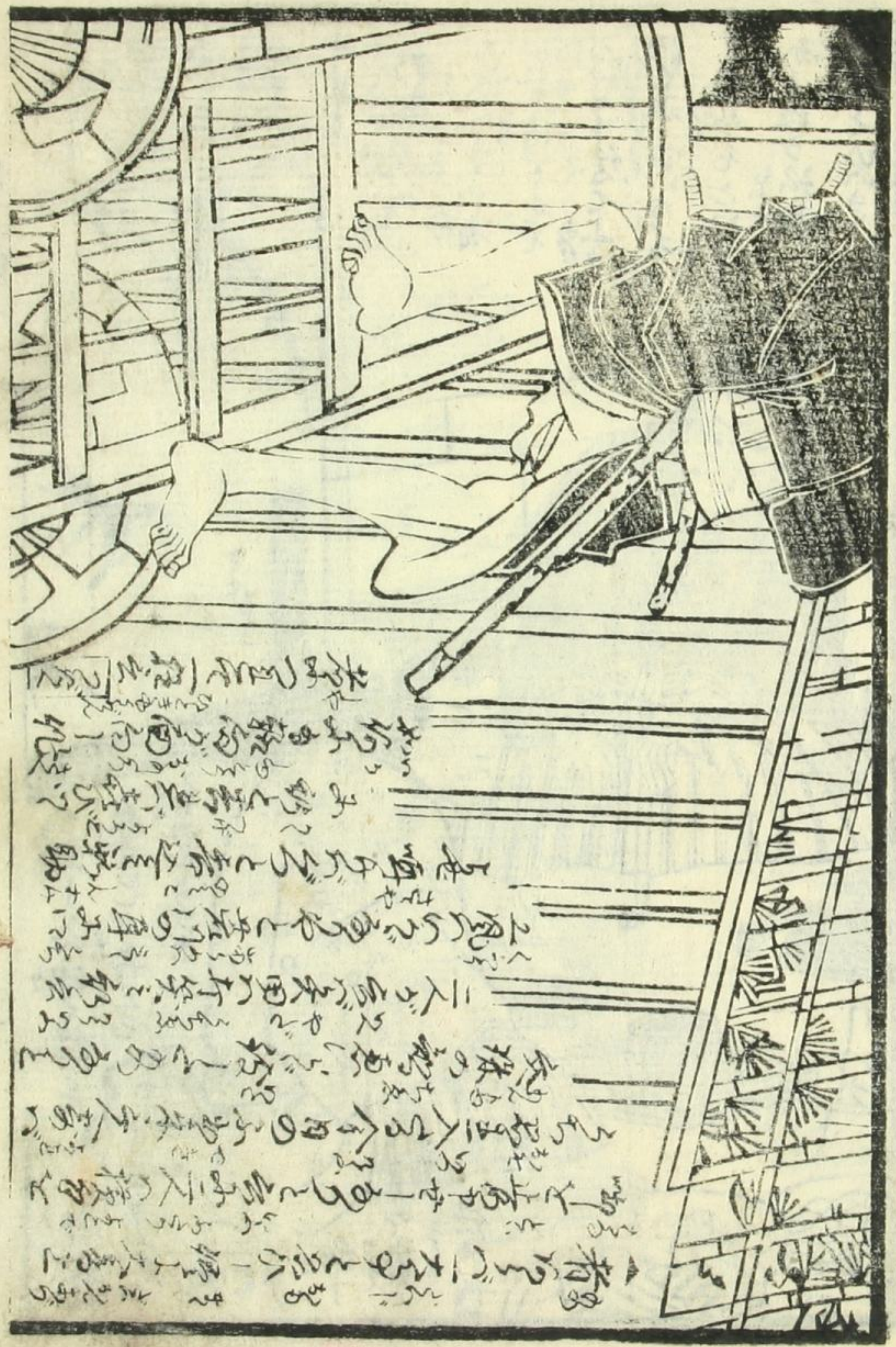
あつんと松尾
 あいと由中つは
 念合の巻はよう
 入来るものなりしう
 拭ひを押しは
 右の大名やまそ
 別とる

三

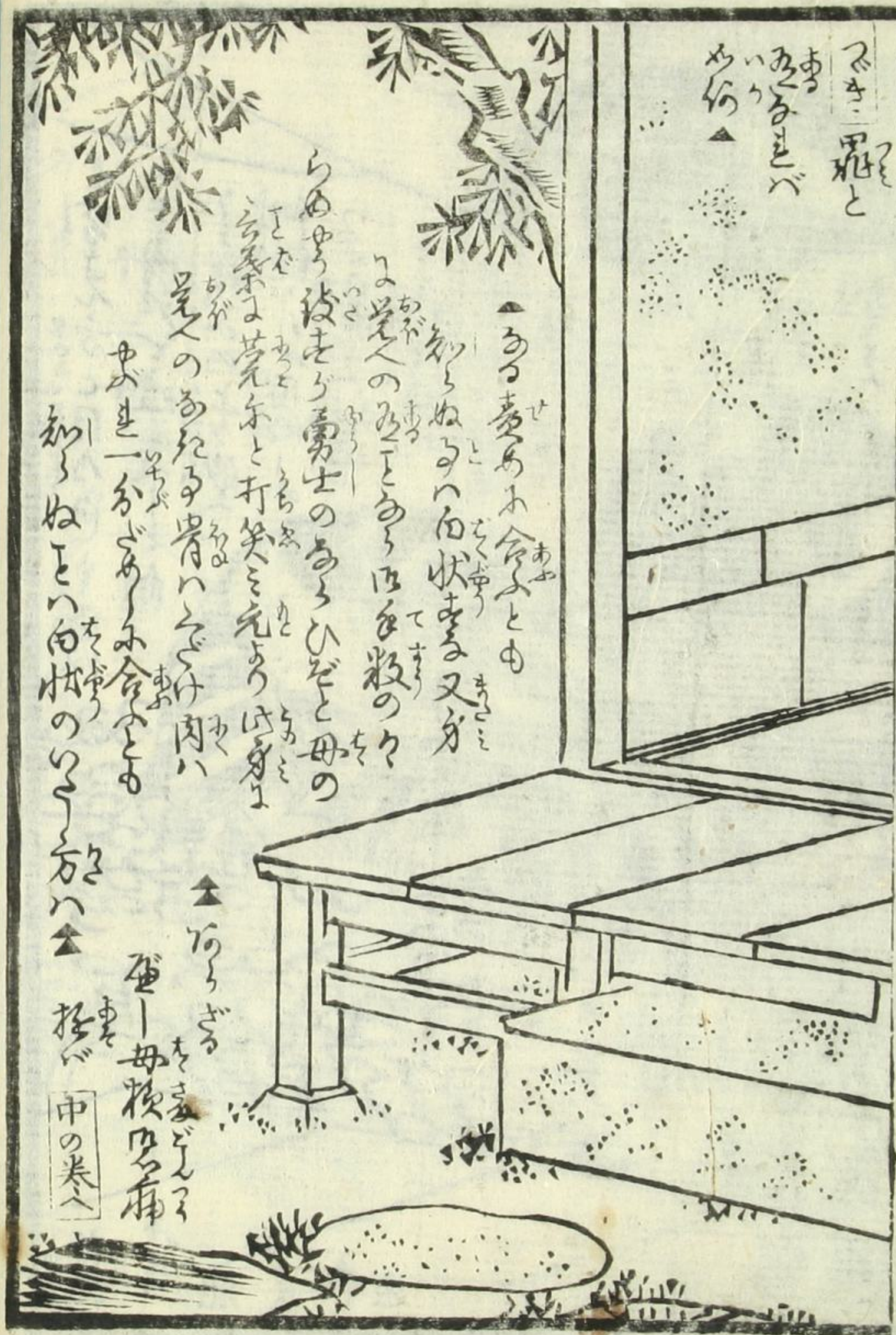


同きん

内青柳 ぬえ



唐書に記述された人物の服装と武備に関する詳細な説明。この人物は、唐時代の武官や士族の典型的な装束を身にまとい、刀を手にしている。背景の建築様式も、唐の宮廷や官舎の要素を含んでいる。



ある妻ありふ合ふとも
 知らぬるの白状また又
 知らぬるの白状また又
 らぬる彼まが勇士のあらしひぞと母の
 云ふは是れと打笑え元よりは身よ
 是のあたる骨のさけ肉の
 是れ一かぶらふ合ふとも
 知らぬるの白状のさけ方へ
 中巻へ

銅版開化七編

開化女用文章

近世新聞
 俗語
 義烈回天百首
 金花七変化

伊呂波字
 全篇
 瀧夜女鳴神

錦繪問屋
 全篇

全地本問屋

全篇

腕競心
三侯
第二編



向兩國青柳樓圖

卷之中

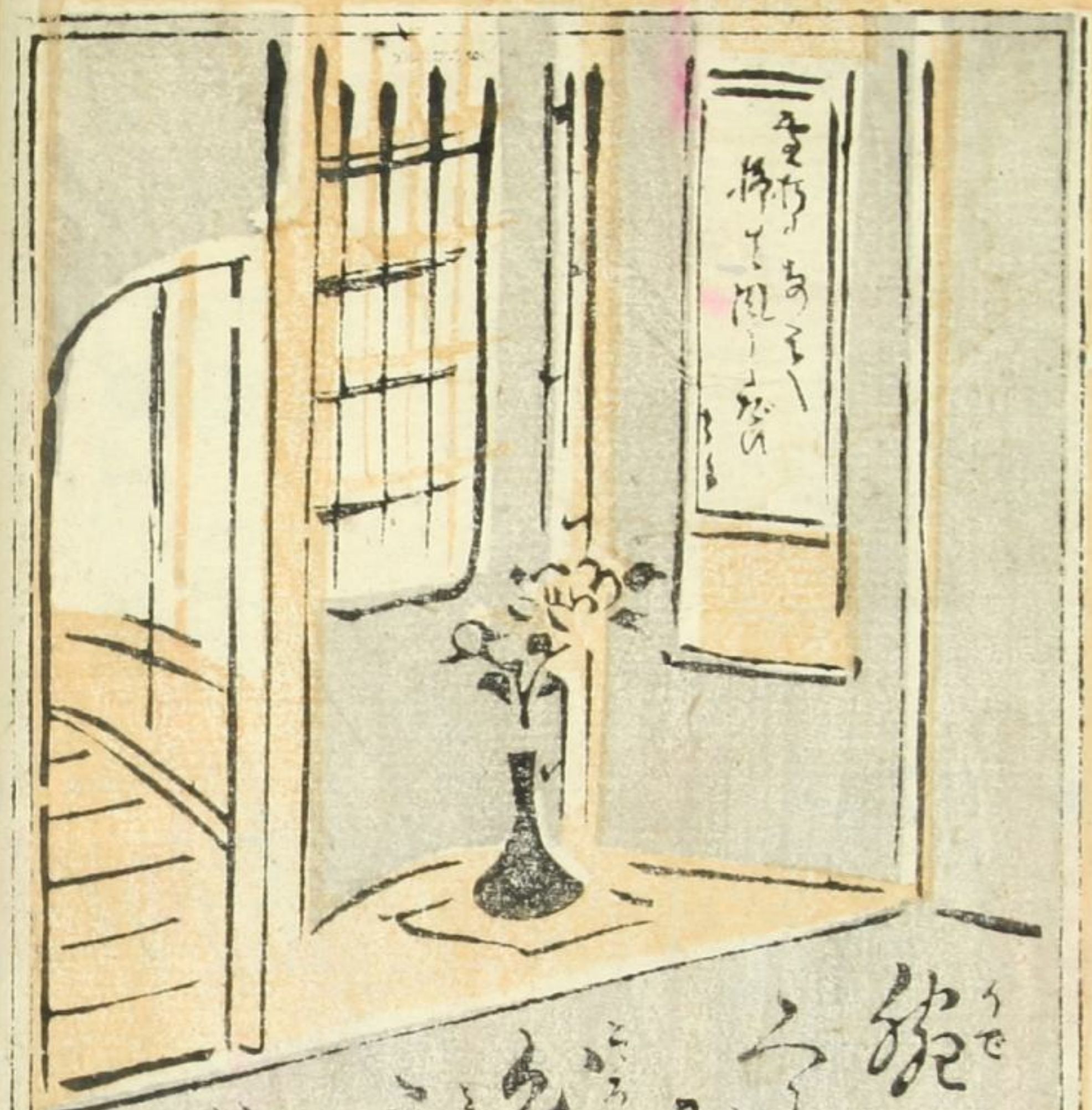




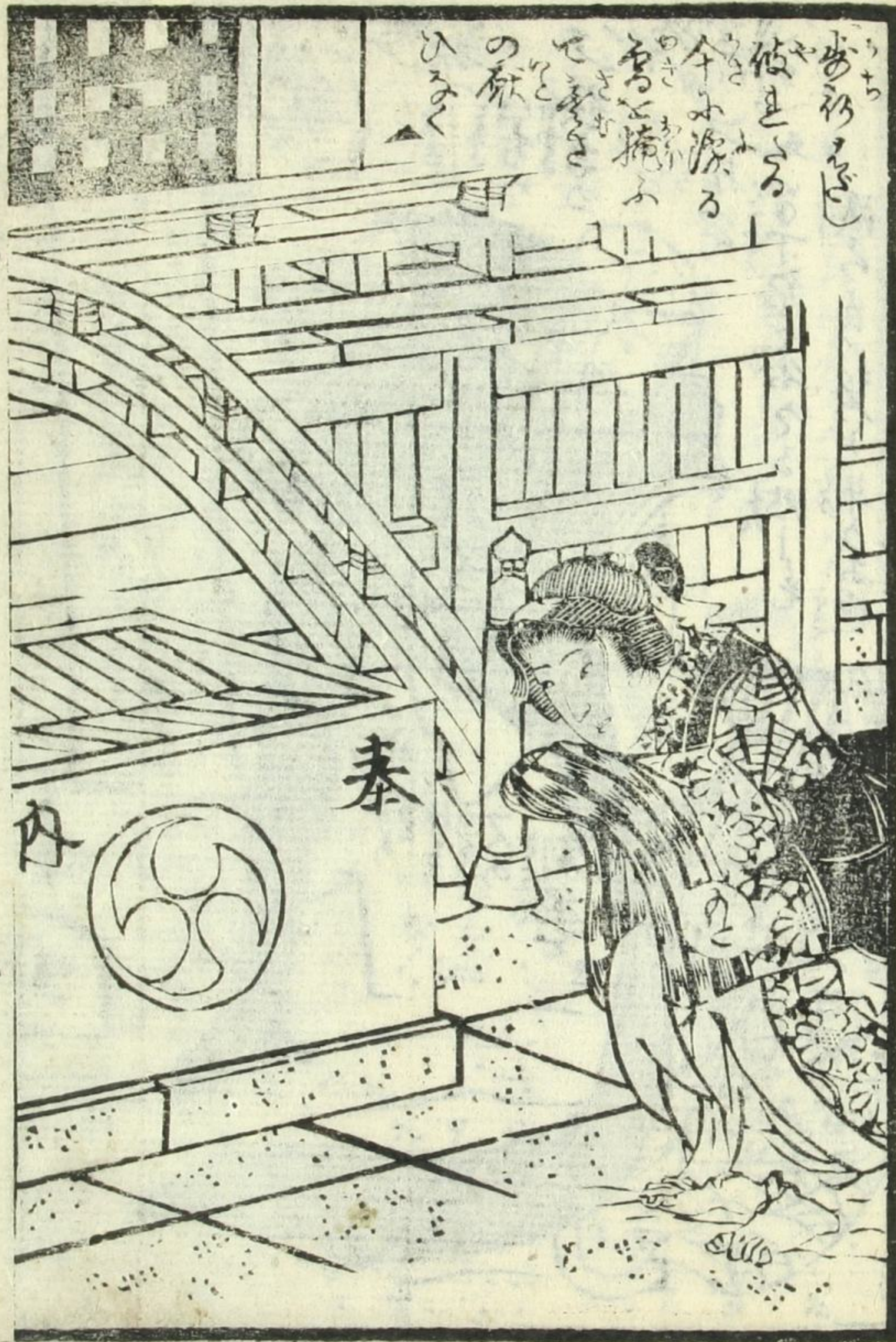
悠とじて引さう
 悠とじて引さう
 悠とじて引さう

上の巻のまゝ

△おれかき新助の
 お人の若川夫甲
 牛とせ首尾
 名前のそのひて
 ちまふ一と
 今よまび若川
 夫甲のお人
 あまあて後と
 結しつる夜ひそふ
 此地とせせ知らぬ
 若く香しなる去後
 上ヶ坂ハサヌ香の
 呵責と待し方ハ
 ○
 新助の
 若く香しなる去後
 上ヶ坂ハサヌ香の
 呵責と待し方ハ
 ○
 新助の
 若く香しなる去後
 上ヶ坂ハサヌ香の
 呵責と待し方ハ
 ○



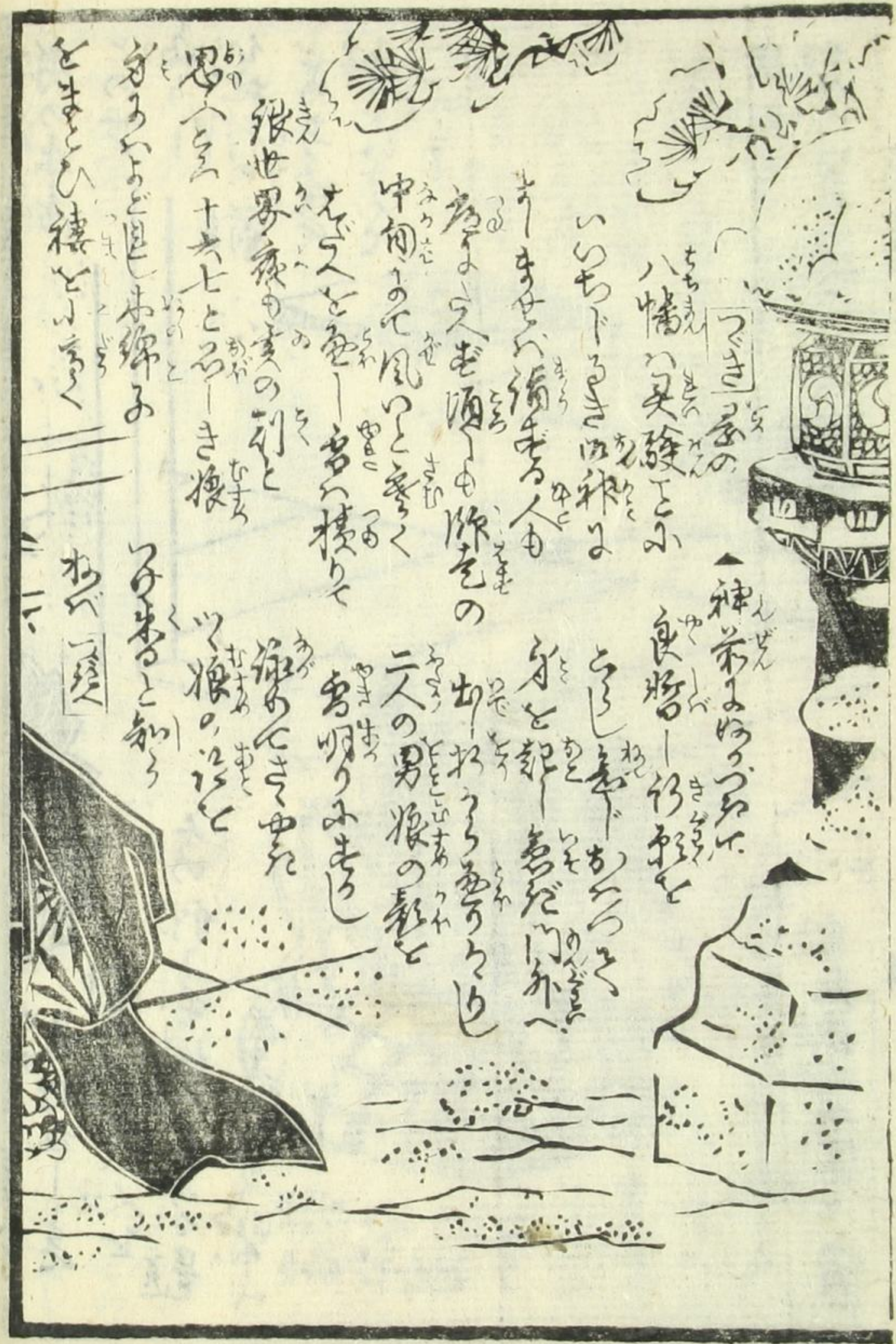
新助の
 若く香しなる去後
 上ヶ坂ハサヌ香の
 呵責と待し方ハ
 ○
 新助の
 若く香しなる去後
 上ヶ坂ハサヌ香の
 呵責と待し方ハ
 ○



彼はさる
 今み渡る
 香を掃ふ
 の献
 ひまぐ

花鏡

五



世世界夜の美の引と
 思入る十六七とありき様
 身よりと見れば綿子
 とまるとい様とよきく

神宗よつらふ
 良増一仔細を
 心と起 善だ門外へ
 二入の男狼の影と
 子母と知り

花鏡

五



つき 大丈夫の情けふ
 虎口の危き
 と通是を
 家邊へ
 意なき
 (是) 決のあはれ
 「おれとさんいおれ
 久尾のさのさあ
 一と一のあれど
 おかきえふよん
 一と一のあれど
 さんのを物(お)めい
 まくとより(お)めい

▲えり
 ちや
 か業ハ
 あれ
 日
 まか
 親父
 ぐ



あつ 一と一(お)めい
 るとど(お)めい
 打(お)めい
 おまの(お)めい
 あつ(お)めい
 と(お)めい
 帰(お)めい
 身(お)めい
 支(お)めい
 おれ(お)めい
 宗(お)めい
 とつ(お)めい
 お(お)めい

と(お)めい
 親父
 ぐ



梅堂國政画

金松堂梓

下之卷



つき来る千あさり
 てはかき今文全を
 止しとてお前へは
 久し内へは行ぬま
 夫命を持量糸の
 よう思ふと持土橋
 なる小舟の船子又
 や持も不意の兄あ
 うう孝はれおと
 とと合をあらはさ
 ととみおとさ切
 てと探す小舟の
 南無阿彌陀仏の

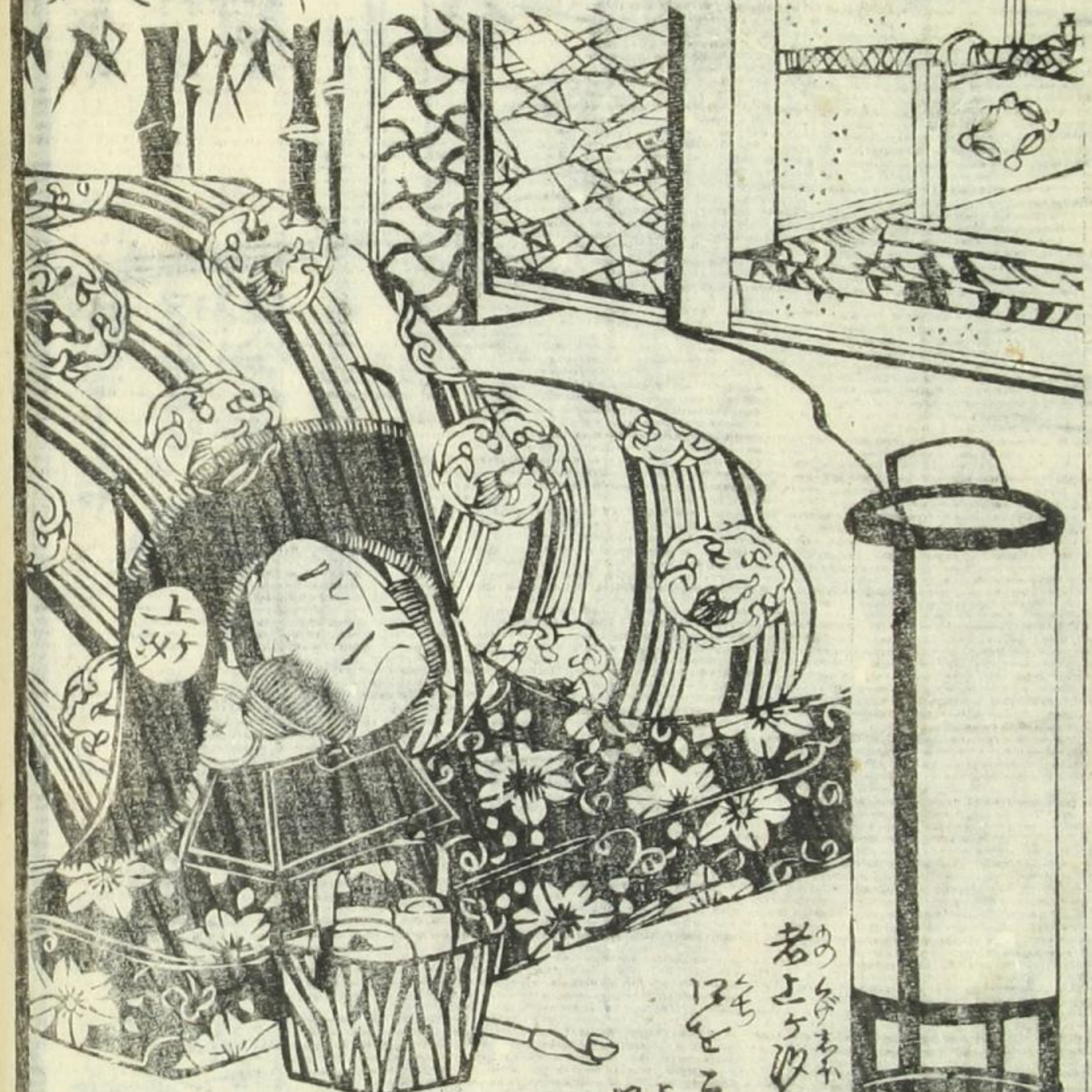


はかき
 より母
 後
 折
 上総や一舟を
 夫さふゆゆ
 是れは
 かに入る全杖と



表法共必
 と通らむ
 てえあ
 と死む
 の意わ
 くる水煙
 姿の足
 小舟の
 平の
 祝の福

つきあふ
地の中
の人あり
てお祝の
美園あり
若ふ結ゆ
の結のき
先月あへ
まうと
妻に記し
みよけは
んちつて
世あへ由妻



若ふ結ゆ
の結のき
先月あへ
まうと
妻に記し
みよけは
んちつて
世あへ由妻

ありと後
めとほの
早くゆ
あはれ
半をの
く回内院
急い
み吹か
つま
鳴虫の
細く



の曲者
二人
の曲者
二人

川上鼠邊編輯

梅堂國政画



「き腰」して用意のふく金
 多り却て愛病へおとそき
 けり書紙
 多ると引
 明て原
 持する一カと被るる
 一は後足はさ糸後
 ちかちと森か一方上分改

△救夜の危秘を
 通是来て今この
 運刃の下小口

□ぬい
 命と通る
 や大尾よあつて
 死者のちかか
 甚と又

△目かみ切り
 くる危うく
 上ヶ改ハ云

△編よ
 ちつたう

橋本編輯
 銅版開化七編
 開化々用文章
 全

新血
 義烈回天百首
 金花七變化
 全

漢語
 伊呂皮字
 全
 馬込女鳴神
 大尾

文
 問屋
 松堂
 漢文
 功

010190517018



